

経営のヒント41 「水煮三国志」

～～～歴史から現在の自分を振り返る！～～～

最近、出版されている本で、とっても面白い著書をご紹介します。

「水煮三国志」 成君憶著 日本能率協会マネジメントセンター 1600 円

中国ビジネス思想の源流を知る！

中国で110万部を超える大ベストセラー

中国エリートは、経営、人材管理、マーケティングを三国志から学んでいた！

中国の故事や古典から、現代のビジネスに置き換えているのがヒントです。

魏の曹操、呉の孫権、蜀の劉備……

現代ビジネスでは誰が覇者になるのか？

「三国志」のストーリーになぞらえて三者「曹操」「孫権」「劉備」が鼎立していく過程から「経営」「人材管理」「マーケティング」などのビジネススキルが知らず知らずのうちに身についていくビジネス小説です。

経営にとって、とっても「ヒント」の多い小説でしたので、ご紹介します。

特に、

「お坊さんに櫛を売る」

「興味が幸福を呼ぶ」

「劉備の桶の理論」

「経営はマネジメントゲーム」

「威厳があるように見せる10のワザ」

「やるべきことは何か。やるべきでないことは何か。」

「顧客の感情をつかむ兵法」

「ねずみの天国」

ポイントのみですが、もしご興味あれば、読んでみてください。絶対、損はしないですよ。私自身も歴史の本は、多く読んでおりますが、重要なことは……。

「何のために読むのか？」

「もし自分だったら」と置き換える！

ことが大切だと考えております。

いかがですか？あなたは「どんな目的で」本を読んでいますか？

「？？情報、知識を得るためであれば、ほとんど身に付きませんよ！」

「温故知新」古きを尋ね、新しきを知る！

歴史を学ぶとは、疑似体験をすること。

それには、「何故、そんな決断をしたのか？」その根底の思想・哲学を学ぶこと。

そして、「もし、自分だったらどうするのか？」と自分自身に置き換えること。

私も毎週2～3冊は読んでおりますが、それが一番重要なことだと考えています。

「論語読みの論語知らず」とならないようにしましょう！